

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	角田 恭子 (****年**月**日)
本 籍	*****
学位(専攻分野)	博士(医療福祉マネジメント学)
学位授与番号	甲第191号
学位授与日付	令和6年9月20日
学位授与の要件	学位規程第3条第3項該当
論文題目	病職歴データを用いた働く女性の不安要素の解明と支援ツールの開発
審査委員	教授 阿南 誠 教授 片岡 浩巳 教授 渡邊 佳代

博士論文内容の要旨

本論文は、我が国の少子高齢化に伴い、女性の労働力が期待される中、一方で労働力率の向上に伴い、入院治療を必要とする女性が増加しているという研究背景がある。本研究は、女性の労働力を維持し、医療領域での不安要素を明らかにすることを目的として、全国の労災病院での入院患者に対して構築された病歴と職業歴等を併せた病職歴調査データベースの分析、医療領域での不安有りの要素解析、及びそれぞれの要素にある交絡因子、交互作用、地域差等の構造を視覚化し俯瞰的に分析するための支援ツール開発の2つを目的とした。その結果として、女性の職場復帰に関する不安において、疾患、雇用形態などがその要素として重要であることが明らかとなった。また、働く女性の復職に関する不安要素を明確にするため、予測モデルとして視覚化するための支援ツールとしての決定木分析は不安要因を明確化することに有効であった。このようなツール開発は、治療と仕事の両立を支援するための具体的な施策の提案を実現している。本論文の内容は正に現代社会において、重要な課題となっている、女性労働力と医療領域を併せた分析、さらに課題を視覚化するための支援ツールの開発という新規性を兼ね備えた論文である。

博士論文審査結果の要旨

本論文については、中間報告会にて、審査委員会教員他、本専攻の教員からその内容についての質疑応答がなされた。多くの指摘があったものの、適切に十分な回答を行った。さらに、今般、最終審査にあたり、論文の再提出を行い、その内容については、中間報告会及び指導教員からの指導や指摘事項を踏まえて適正に修正され、改善が図られていることを確認した。前回の指摘も踏まえて、今回、その修正後の論文内容について改めて口頭試問を行った。審査の内容については、審査委員からの30分程の質疑応答と30分程の英語能力についての記述式試験とした。英語能力試験については論文記載に関する英語論文をサンプルとした。その結果、研究論文における専門分野の内容については、十分に修正が加えられていたが、一部口頭試問の結果指摘事項もあり改めて修正を指示したところ、8月2日までに最終論文が提出され、最終的に合格とした。また、英語能力についても十分に対応も出来ており、本専攻の基準に照らして、併せて合格とした。